勝手にコーヒーブレイク　82

９月下旬に中央ヨーロッパ５ヶ国周遊ツアーに行ってきた。欧州まで飛行時間が 11 時間半もかかるのがしんどいので、長旅もこれが最後かなと思っていたが、あと、１、２回は行けるかも…とまだまだ欲が出る。徳島のＢさんは海外旅行 100 回？で打ち止めにしたと言っていたから、上には上があるもんだ。

海外旅行というのは本人のお金に余裕があるという経済力、健康と体力、「行きたいなぁ」だけでなく「行く！」という気力と実行力。友人や配偶者など同行者が居ること。そして留守宅の家族の理解と健康が必要で、なかなかハードルは高いのかもしれない。

国内はともかく、私は海外旅行はツアーばかりである。個人なら好きなところに行けるだろうが、いくら友だちといっしょでも、海外個人旅行は無理。日本語もまともに聞き取れないし、英語も話せない、飛行機の乗り換えがおそろしく煩雑で右往左往する。何よりも、ツアーのほうが効率よく観光できるというのが大きい。たとえ、ホテル帰着が夜の８時を過ぎ、モーニングコールが６時に鳴り、スーツケース詰め直し、毎朝バスが８時発だとしても、付いて行けばいいだけのことだ。

独身の中学の同級生は毎年一人でヨーロッパツアーに行くらしい。日程も自分の都合で決められ、ホテルも一人だと気楽だよと言う。けど、自由行動となると、ホントに一人で動かないといけないし、うーん、心細いよね。異国の地でホテルに１人なんて、人工内耳の身にはビビる。それを言えば、国内ツアー旅行でも一人参加は嫌だ。以前、白川郷の写真ツアーに一人参加したことがあるが、周りは友だち同士や夫婦参加で、雪のちらつく夜、撮影後の集合場所がはっきりわからなくてオロオロしたことがある。最初から一人で旅行する方がマシ。大勢の中の独りぼっちは寂しい。友だちといっしょなら、積極的にツアーの人と関わらなくても、ちょっとした疑問も不満も感想も自分たちで完結する。私はだいたい３人なので、ホテルの部屋はトリプル使用、手狭でエキストラベッド、お風呂も交代で、窮屈なことも多いが、それでも心強い。

今回の中欧ツアーでは一人参加の人は１名だったが、いつもは３名くらい居る。ツアー中の昼食や夕食は大テーブルに何人も座ることが多いので、同じツアーの人たちと同席になり、一人旅同士で同じ席に座ったりできる。

「美しいものを見に行くツアー…」は漫画家イラストレーターの益田ミリが**「行きたいところに行って、見たいものを見て、食べたいものを食べる」**ために「北欧のオーロラ」「クリスマス・マーケット」「モンサンミシェル」「台湾天燈祭」のツアー旅行におひとり様参加したエッセイである。出版社の主催旅行や仕事旅でなく、自分のお金を使ってごくふつうの旅行社のツアーに参加した感想がまとめてある。著名人だと思うのに、その感覚がおそろしく庶民的で、気持ちはよおくわかるんだけど、反面、もうちょっと夢や気合を入れた内容を発信してほしいと思ってしまうほど。「そうやねん、ある、ある、こんなこと」がいっぱい載っている。

一人旅の心得、心情みたいなところは可笑しくて笑える。食事の時にどこに座るかという問題、周囲の反応を見ながら空いた席にさりげなく「ここよろしいですか？」とそっと問いかけ、一人旅同士でもお互いの家族、仕事、生活のことは深くは詮索せず、付かず離れずの距離を保つ。それでも観光やお土産買いでは情報を交換し合って、添乗員に聞くまでもないことや、ちょっとしたことなどお互いに助け合って、**「それぞれ１週間分の感じのいい自分」**を作りながら旅を共にする。旅行記としては、特に何の発見もなく物足りないが、一人でツアーに参加してみようかな？の人の参考書として読むなら役に立ちそう。あなたも美しいものを見に行きませんか？

『美しいものを見に行くツアーひとり参加』

益田ミリ　　幻冬舎